



# Yokaro

TRAVEL PHOTOGRAPH

春 2011 旅

長崎・熊本・鹿児島

# 春 2011 旅

3月下旬曇り空の下、線路跡のゆるやかな坂道の先に、桜の木が見え隠れしている。  
鹿児島県の西海岸に面した薩摩川内市から、内陸の旧大口市の間をつないで運行されていた  
旧宮之城線。現在その沿線沿いに、大路を偲ぶ姿を見つけるのは難しい。

薩摩川内市樋脇町

## Yokaro vol.01 春

企画・制作・編集・撮影/デザインスタジオ ワイズ

2011 禁止・無断転載 © デザインスタジオワイズ

熊本県/熊本市……………熊本城  
熊本県/天草市……………崎津天主堂  
長崎県/長崎市……………出島・グラバー邸  
鹿児島県/霧島市……………霧島神宮  
鹿児島県/鹿児島市……………鶴丸城跡  
鹿児島県/指宿市……………池田湖



「質実剛健」を辞書で調べると、「かざりけがなく、まじめで、強く、しっかりしていること。」と書かれている。早起きで働き者で、寡黙で、いつも白いワイシャツと黒いパンツを履いて、黙々と生きている人のような、熊本城は、そんな美直な印象のお城だ。

春、熊本城は黒いパンツの上に、淡いピンクのシャツを羽織る。威風堂々とした天守閣が少々恥ずかしげな表情に見える。

熊本城は市の中心部、茶臼山の丘陵地帯に建っている。築城当時周囲は、白川・坪井川・井芹川の河川や湿地帯に囲まれ、天然の要塞のような地形の場所だったであろう。また、井戸を掘ると良質な水を容易に得られることも、築城に最適な場所として選ばれた理由だったらしい。

城作りの名人と呼ばれた、加藤清正公のお眼鏡に適った土地に建つ熊本城。周囲を散策すると、難攻不落と言われたその訳を実感できる遺構が点在している。

## 熊本城

熊本県熊本市

熊本城  
熊本県熊本市



#### 二様の石垣

手前右手、傾斜が緩やかな石垣は築城当時のもの。一方、左手奥の石垣は細川時代に増築されたものとされている、重ね積みから算木積みへの技術進歩がひと目で分かる。

# 崎津天主堂

熊本県大草市河浦町崎津





## 崎津天主堂 熊本県天草市

トンネルを抜けると波穏やかな羊角湾が、目前に広がっている。漁港まちと言った趣の美しい入り江を眺めていると、瓦屋根の間から天に向かい尖塔が建っているのが見える。尖塔の上の十字架で教会だと気づくが、重厚な佇まいの教会は不思議なくらいに周辺の家屋となじんで建っている。

崎津の第一印象は、男はつらいよのロケ地だと思った。寅さんがヒョッコリ顔を出しそうな旅館の窓や、あくびをしながら、歩いてきそうな通りが、其処ここにある。

1638年の禁教令以後も、240年間に渡って「隠れキリシタン」として信仰が守られてきたという激しい弾圧の歴史が、現在の静かな佇まいからは想像もつかない。

天主堂は、なんの違和感も無く集落に根付き、懐かしい漁港風景の一部になっている。



幹線道路から集落に続く、入り江沿いには石組みの堤が続き、古い家並みと会いまって懐かしい漁村の風景が残されている。

# 長崎市

坂の町、長崎市の朝  
幾十幾重にも重なり合った家並みやビルが、朝日に照らし出され浮かび上がる



# 出島

## 長崎県長崎市

現在は市の中心部にあり、都市化の影響で埋没した出島を、200年前の姿に甦らせる活動が進行している。出島に入って驚くのは、単なる復元ではなく、当時の建築技術や材料・素材にこだわり細部まで時代考証された復元を行っていることだ。見せ掛けの観光施設のレベルではない、本物を体感できる史跡を目指しての復活作業が、今も続いている。

出島は、1634年

江戸幕府の鎖国政策の一環として長崎に築造

された人工島。当時

唯一の外国との窓口となる出島建設のために「出島町人」と呼ばれる長崎を代表する豪商25人が共同出資をした。しかし、海の中に島をつくるという発想、工事の設計・監督にあたった人物、その土木技術の詳細については、現在でも謎に包まれていると噂だ。

鎖国から開国へと激動の時代に、深く関わってきた長崎。明治維新前後の歴史や、その息遣いまでも美感できる「まち」だ。

一番船船頭部屋

オランダ船（一番船）船長や商館員の居宅として使用されていた建物。

中島川に架かる出島橋から眺めた出島





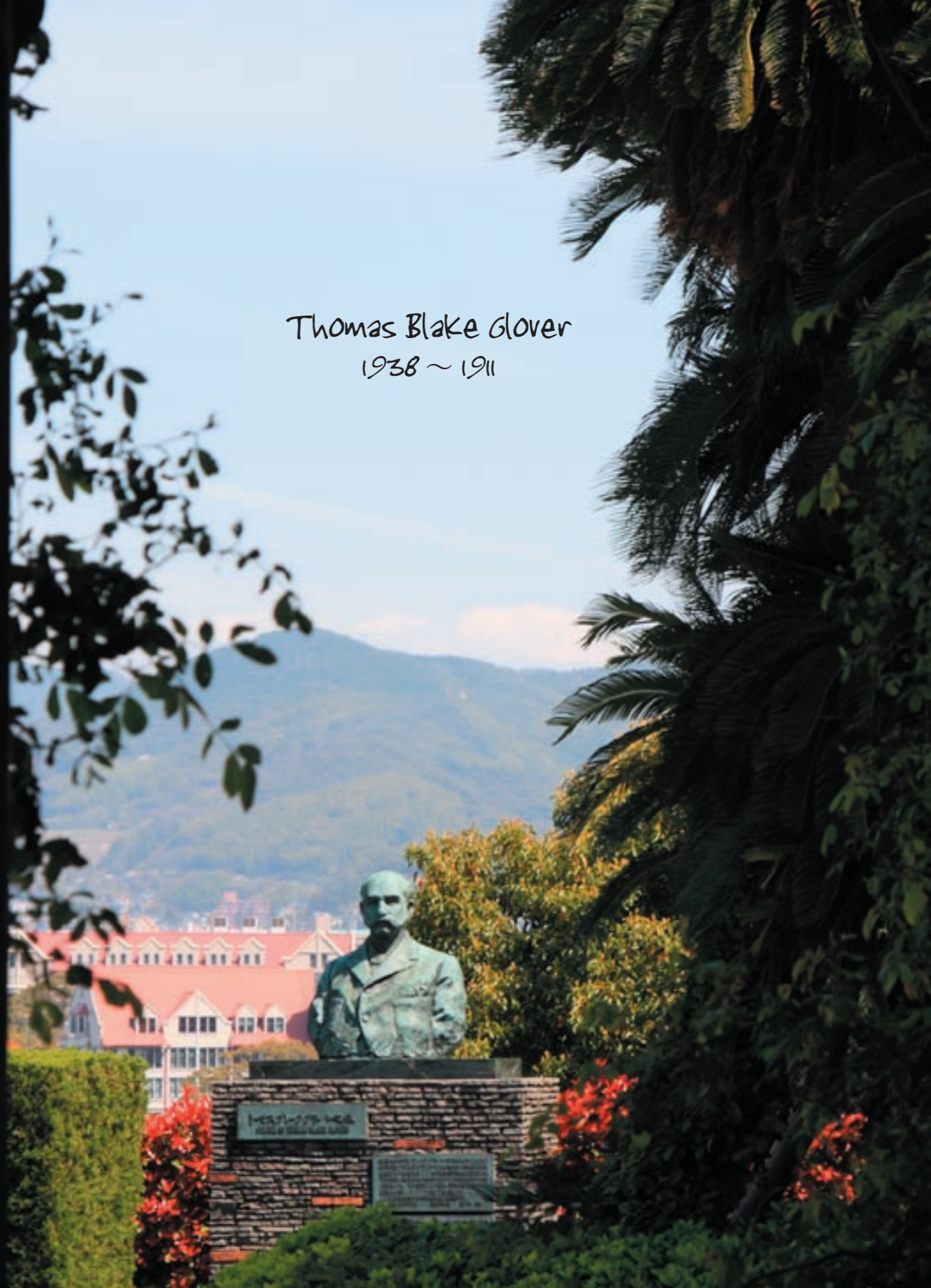
料理部屋  
商館員たちは日2回、カピタン部屋の2階で食事をしていました。その食事を作っていた部屋。当時の調理器具や食材がリアルに再現されている。



# グラバー園

長崎県長崎市南山手

Thomas Blake Glover  
1938 ~ 1911



## グラバー園 長崎県長崎市

風光明媚な長崎港を眼下に、南山手の丘の上に瀟洒な洋館が立ち並ぶグラバー園は、長崎観光のメインとも言える場所。

グラバーやリンガー、オルトの旧邸があった敷地に、長崎市内に残っていた歴史的建造物を移築している。安政6年（1859年）、長崎は横浜・函館ともに開港され、多くの外国貿易商人が来日し、市街地に多くの外国人居留地が整備されていた。明治32年（1899年）居留地が廃止されるまでの約40年の間に、異国情緒あふれる家並みが造られていった。明治維新に多大なる影響を与えた人々が、ここに出入りしていたことを考えると、眺望の良さも違ってみえてくる。日本で生涯を終えたグラバーの旧邸宅から眺める長崎港を、彼らも、眺めていたのかと思うと感慨深いものがある。



### 旧三菱第2ドックハウス

「ドックハウス」は修理のために船が造船所に入っている間、乗組員たちが宿泊した施設。明治29年に作られた典型的な西洋建物。2階のバルコニーに立つと、今から430年以上前に開港した長崎の港を眺めることができる。

3月下旬から4月初旬、本殿前の枝垂れ桜が咲き始める。  
社殿の朱色と、桜の薄桃色が雨に煙って美しい表情を見せる。



# 霧島神宮

鹿児島県霧島市



### 霧島神宮 鹿児島県霧島市

4月の初め雨の霧島神宮は、桜に彩られていた。参道わきの苔むした岩や、緑の木々が雨に打たれしっとりとした佇まいを見せている。三の鳥居をくぐると、うっそうとした緑のトンネルと石畳が続いている。光の先に豪華な唐破風（からはふ）を持つ勅使殿が見えている。社殿の柱や梁、長押などすべてが朱色に塗られ、杉木立の濃緑色とのコントラストが美しい。極彩色の浮き彫りも絢爛豪華な造作が施されており、「西の日光」と呼ばれている。建国神話に登場するニギノミコトが祭られている霧島神宮は、創建当時は高千穂峰の麓に社殿があったが、山の噴火により消失した。場所を移し再建されたが再び噴火により炎上した。文明16年（1484年）島津忠昌により社殿等が再興された。

# 鶴丸城跡

鹿児島県鹿児島市



城壁跡が残る、現在の県立図書館と黎明館の境界。春、桜の並木が彩りを添える。



## 鶴丸城跡 鹿兒島県鹿兒島市

鹿兒島市の中心部に標高108メートルの山「城山」がある。市街地を一望できる観光名所のひとつになっているその麓に、築城されたのが鹿兒島城だ。別名を鶴丸城と呼ばれている。薩摩藩の藩主島津氏の居城として、慶長6年（1602年）島津家第18代当主（初代薩摩藩主）島津家久が着工した。城といっても本丸・二の丸、下屋敷が並び、天守閣や層楼のない屋形づくりだった。これは「城をもつて守りと成さず、人を以って城となす」という薩摩藩流の思想によるもので、藩内の各所には兵農一致の郷土団が守る外城が巡らされていたためだった。

現在は、城壁と堀、擬宝珠つきの石橋だけが残っているが、春になると城内には桜が咲き誇り、往時の華やかさが甦る。





鹿児島県指宿市 池田湖

3月下旬の早朝、池田湖が霧に包まれた。日の出とともに風が吹き、開門岳のシルエットがうっすらと姿を現した。